

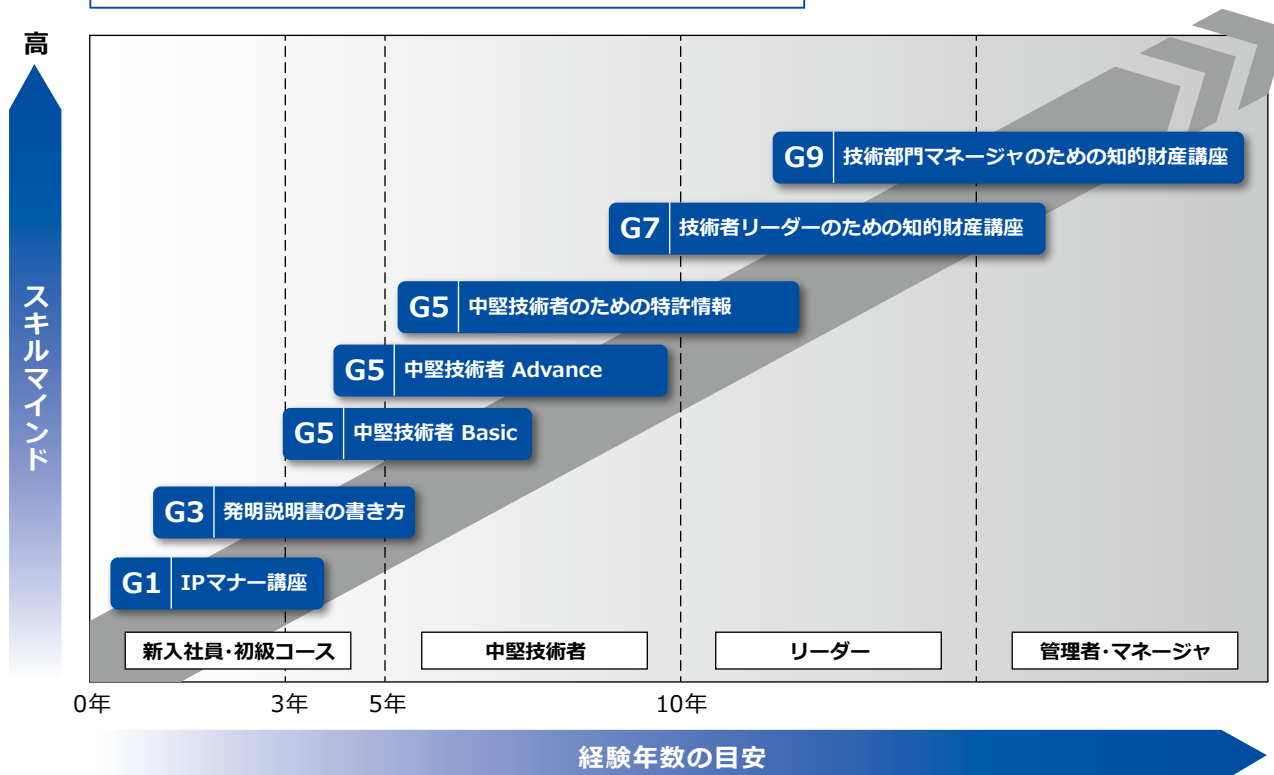
G 技術部門向けコース群（東海）

概要

技術部門向けコースは、体系化された定例コース群として開催されております。
 ここでのコース設定は、下図に示す体系に沿って設定されています。

基本的な考え方

- 日本知的財産協会ならではの実務的な技術者教育
- 企業での階層（経験年数）に対応したコース設定



今年度は、東海地区で次の6コースを開催します。

開催コース	受講対象者
G1N * 技術系新入社員のための I P マナー 講座	技術系新入社員
G5 中堅技術者のための知的財産 Basic 講座 (旧 :G2)	技術職経験が 3 ～ 5 年の技術者
G5A * 中堅技術者のための知的財産 Advance 講座	技術職経験が 4 ～ 1 0 年の技術者
G5R * 中堅技術者のための特許情報	技術職経験が 5 ～ 1 2 年の技術者
G7 技術者リーダーのための知的財産講座 (旧 :G1)	技術者リーダー
G9 * 技術部門マネージャのための知的財産講座	技術者マネージャ

* サテライトでの開催となります。

※また、関東と関西では、これらのコースに加え、以下のコースが開催されます。

G 3 本質を考えた発明説明書の書き方演習 ⇒ 発明説明書作成経験が 1 ～ 2 件の方
 詳しくは、[関東](#) または [関西](#) の該当箇所をご覧ください。

G1N

技術系新入社員のための
I P マナー講座初回開催日の
2週間前まで申込可能です。
お申込みはこちらから！

概要

このコースは、技術系の新入社員を対象としており、技術系新入社員への知的財産導入教育にご利用いただけるよう企画されています。

従って、このコースの狙いは、「受講者である技術系新入社員が、技術者として必須である“I P マナー”を心得て、技術職としてのスタートを切れるようにする」ことです。

この“I P (Intellectual Property) マナー”とは、「自らの技術成果を権利化し、また他人の権利を尊重するに際しての、知的財産に対する考え方や行動」を言い、学生から企業人への切り替えが必要な早い時期に、講義を通じて企業における実際の姿を学び、また研究/開発での基本ルールである「発明の届出」や「他社権利の尊重」、「日頃からの特許調査」の3点を中心としたI P マナーを学ぶようにしております。

このコースの受講対象者は、技術系の新入社員です。そして開催時期も、企業での研究/開発に携わり始めた時期に合わせて開催します。

講師としては、研究/開発時代に知的財産の取扱いに躰き、その体験を糧に実務を担当している弁理士、及び研究/開発の様子を熟知し、日頃から技術者を知的財産面から指導育成されている経験の深い知的財産部門の方の2名です。

開催日 (1 日間)		講義科目	講師
8/3(金)	1.5 時間	1. 研究 / 開発における知的財産 光造形法 (3D プリンター) 創作までの 成功体験と実用化・特許化の失敗体験	特許業務法人快友国際特許事務所 弁理士 小玉 秀男 氏
	4.5 時間	2. 技術者が心得るべき IP マナー	パナソニック (株) 高城 真 氏

申込コード:G1N-N1-S

1. 研究 / 開発における知的財産

光造形法 (3 D プリンター) 創作までの成功体験と、実用化・特許化の失敗体験

物づくりの画期的な技法としてマスコミでも大きく採りあげられている3Dプリンターに関連して、その原理発明を創作し、発明の普及と実用化に苦戦し、知財に関する致命的失策を体験した当事者が、一連の成功体験と失敗体験を披露していきます。更には、「次は成功」に繋がるお話もしていきます。

2. 技術者が心得るべき I P マナー

研究/開発での基本ルールである「発明の届出」や「他社権利の尊重」、「日頃からの特許調査」の3点を中心に、大学と企業との研究/開発の違いや“何のために”、“何を”、“どのように”して行動するかを講義・解説します。

東海	研修会場:愛知県産業労働センター(ウインクあいち)	募集定員:70名
G5E	中堅技術者のための知的財産 Basic講座(電気・機械)	初回開催日の 2週間前まで申込可能です。 お申込みはこちらから！

概要

このコースの受講対象者は、事業部門や研究・開発部門の方であって技術職経験が3年～5年の方になります。

このコースの狙いは、中堅技術者自らが技術成果を創出し、また事業実施に結びつけるために、日常的に実行すべき知的財産事項を何のためにどのように行うか、更にその注意点を知り、自らが主体的に実践していくきっかけとすることです。

このコースは、知的財産の基本事項を研究開発の流れと関連付けて講義し、〈電気・機械〉と〈化学〉との技術分野に分けてそれぞれ1日コースとして開催します。

会社内での技術者向け知財研修の事前研修としてもご活用いただけます。

【電気・機械】

開催日 (1 日間)		講義科目	講師
10/25 (木)	午前	1. 研究開発テーマ選定時の特許情報活用 2. 後で困らないための他社特許の尊重	ブラザー工業(株) 桃崎 元博 氏
	午後	3. 事業を支える特許出願とその権利獲得	オムロン(株) 金本 径卓 氏

申込コード：G5E-N1

1. 研究開発テーマ選定時の特許情報活用

技術や同業者の動向を知り、適切な研究開発テーマを選定していくための特許調査とその活用について、調査目的に応じた調査手段、調査結果の整理法、特許情報の活用と共有化等についてどのように行うかを理解する。また、日常的な特許調査は、技術者自身の為でもあることを知る。

2. 後で困らないための他社特許の尊重

障害となり兼ねない他社特許を早期に発見し対応するため、特許請求の範囲の基本的な読み方と自社技術との対比の仕方、技術回避策の取り方、知財部と相談するタイミングやその仕方を理解する。

3. 事業を支える特許出願とその権利獲得

演習形式のG3コースで行っている発明の本質的な把握を講義形式で習得し、加えて群としての出願や事業化の観点を捉えた出願をどのように進めていくのかを理解する。

また、発明者として、出願後に判明した発明の重要性や技術変化を知財部に適切に伝達し、権利化段階に積極的に関与していく大切さを知る。

東海	
G5C	中堅技術者のための知的財産 Basic講座(化学)

本コースは隔年開催のため、2018年度の講義は休講とし、2019年度に開催する予定です。

G5A

中堅技術者のための
知的財産Advance講座初回開催日の
2週間前まで申込可能です。
お申込みはこちらから！

概要

本コースでは、中堅技術者の知財・事業への業務拡大を円滑に進める一助としてもらうため、実務で考えなければいけない下記のテーマにつき、技術者の視点からの事例紹介とその実践的対応方法について講義をします。

このコースは、事業部門や研究・開発部門の技術者であって、技術職経験が5～10年程度で近い将来に技術者リーダーとして活躍が期待される方々を対象としております。

開催日 (1 日間)		講義科目	講師
9/21(金)	午前	1. 技術アライアンスと知財リスク	(株)デンソー 駒村 利憲 氏
	午後	2. 特許の活用法	キヤノン(株) 木下 達也 氏
		3. 外国特許取得の基礎知識	パナソニック(株) 弁理士 鎌田 健司 氏

申込コード: G5A-N1-S

1. 技術アライアンスと知財リスク

様々な技術アライアンスの中で、共同研究・共同開発に伴うリスク、委託に伴うリスク、産学連携に関するリスクの事例を紹介し、技術者の立場でそのリスクを回避する方法、考え方を一緒に考えていただきます。

2. 特許の活用法

特許権を用いて技術・製品・事業を守るための基本的な考え方、そのような場合により有利に使用できる権利の取得・活用に関するヒント、知的財産部門と共に権利行使を行う場合に、発明者あるいはそのリーダーに求められることを説明します。

3. 外国特許取得の基礎知識

主要国における近年の知財情勢、特許法制度、国際条約など、出願国を決める場合に考慮すべきファクターを説明し、効果的に外国出願を行うことができることを目的とします。

概要

このコースは、技術者が自社の研究開発・事業活動に関係する特許情報を活用すること、すなわち適宜適切に特許情報を調査・分析し、研究開発・事業活動に活用できる知識を習得することを目的としています。

受講者として技術部門または知財部門に所属し特許情報を研究開発や事業活動に活用される方、特許調査に携わっている方、業務上特許情報に関心のある方等を想定しています。

このコースでは特許情報の調査・分析のための基礎実務および研究開発・事業活動への特許情報の活用方法について、この分野において実務経験豊富な企業講師により、技術動向調査、パテントマップ作成、先行技術調査などの具体例を示しながら講義していただきます。

また、海外出願において重要となる米国、欧州、中国の特許調査についても、説明していただきます。

開催日 (1 日間)		講義科目	講師
12/19(水)	午前	1. 特許情報活用の基礎知識 2. 特許情報の調査 (各種特許調査の概要と手法) 3. 特許情報の分析 (パテントマップ) 4. 特許分類 5. 新規性調査の実務	パナソニック(株) 戸田 俊之 氏
	午後		

申込コード: G5R-N1-S

1. 特許情報活用の基礎知識

特許情報活用の目的、方法、対象となる資料、電子データについて解説し、特許情報の活用に求められる知識の確認を行います。併せて、企業における特許情報の活用の重要性についても解説します。

2. 特許情報の調査 (各種特許調査の概要と手法)

特許調査を目的毎に分類し、各特許調査の目的、調査範囲、調査手順について解説します。併せて、特許調査に必要な情報の入手方法についても解説します。

3. 特許情報の分析 (パテントマップ)

特許情報の分析事例としてパテントマップを例に挙げ、検索式の作成、選別分類基準の考え方、及びパテントマップの作成と分析を解説します。

4. 特許分類

国際的に使用される代表的な特許分類について概要、および特に I P C (国際特許分類) F I (File Index)、F タームについては構成の詳細を解説します。

5. 新規性調査の実務

新規性調査の業務の流れを説明し、かつ各ステップにおける業務について解説します。また後半では、複数の演習問題を行います。

東海	研修会場:愛知県産業労働センター(ウインクあいち)	募集定員:100名
G7E	技術者リーダーのための 知的財産講座(電気・機械)	初回開催日の 2週間前まで申込可能です。 お申込みはこちらから！
東海	研修会場:愛知県産業労働センター(ウインクあいち)	募集定員:40名
G7C	技術者リーダーのための 知的財産講座(化学)	初回開催日の 2週間前まで申込可能です。 お申込みはこちらから！

概要

このコースの受講対象者は、研究、開発、設計、生産等の第一線で部下を指導しながら活躍されている技術者リーダーの方々に例えばテーマリーダーやチームリーダー、主任と呼ばれている現場の第一線で管理・監督に携わる方を言います。このコースの狙いは、研究開発の成果を事業の成功に結び付けるために、技術者リーダーが知的財産に対する考え方や日頃から実践すべき事項を習得し、リーダーとして自らがどのように行動し、またどのように部下指導をすべきかを考えていくきっかけとすることです。このコースでは、技術者リーダーの視点に立ったカリキュラムを、技術分野に応じた事例を交え、高い知見を持ち現場経験豊富な講師が講義します。また、多忙な技術者リーダーの方が受講しやすいように2日間のコースとし、〈電気・機械〉と〈化学〉との技術分野に分けて開催します。このコースを通じて最近の動向を踏まえ知財マインドや知財知識の更なるレベルアップを図り、技術関連部門の業績を一層向上させるきっかけ作りにもご活用ください。

【電気・機械】

開催日 (2日間)		講義科目	講師
8/23(木)	午前	1. 事業と知的財産 2. 特許情報の活用	協和特許法律事務所 加藤 泰助 氏
	午後	3. まずは特許出願	クリエイティブ I P. 長谷川 治雄 氏
8/24(金)	午前	4. 問題となる他社特許への対応 5. 事業活動での自社特許の有効活用	ソニー(株) 小野 賢一 氏
	午後	6. 研究・開発活動と契約	アズビル(株) 川越 浩美 氏

申込みコード：G7E-N1

【化学】

開催日 (2日間)		講義科目	講師
9/3 (月)	午前	1. 事業と知的財産 2. 特許情報の活用	協和特許法律事務所 加藤 泰助 氏
	午後	3. まずは特許出願	クリエイティブ I P. 長谷川 治雄 氏
9/4 (火)	午前	4. 問題となる他社特許への対応 5. 事業活動での自社特許の有効活用	東洋紡(株) 近藤 英二 氏
	午後	6. 研究・開発活動と契約	(株)大阪ソーダ 野田 康子 氏

申込みコード：G7C-N1

1. 事業と知的財産

事業活動における知的財産が果たす役割を知り、事業を優位に導く研究・開発活動の進め方を理解する。また、知的財産活動における技術者リーダーの基本的役割を理解する。更に、事業活動に大きな変化をもたらしている知的財産を巡る最近の動向を知る。

2. 特許情報の活用

情報活用の大切さを認識する。また、情報活用において技術者が行う事項を知り、情報は「知る」だけでは不十分であり「行動する」アクションがリーダーに求められていることを理解する。

3. まずは特許出願

特許出願の目的を確認する。また、「強い権利」が持つ要件を知り、部下の発明創造を促す指導の大切さを理解する。更に、事業を支える発明に気づき、多角的な観点から出願に結び付ける知財部門との連携の必要性を知る。

4. 問題となる他社特許への対応

他社特許が事業に与える影響の大きさを特許権の本質や判例を通じ確認する。また、問題となる他社特許とはどのようなものか、更にその特許に対する対応を知り、併せて知財部門や法務部門等との役割分担を理解する。

5. 事業活動での自社特許の有効活用

事業活動を優位にする自社特許活用の意味を理解する。また、事業活動にとっての知的財産権の価値評価の重要性和観点とを知る。更に、侵害品の第1発見者としての役割とその処置とを理解する。

6. 研究・開発活動と契約

研究・開発活動に関係する契約について、その役割、締結前の注意点、契約の遵守の重要性を知る。また、知財部門や法務部門との事前協議の必要性を理解する。

G9M

技術部門マネージャのための知的財産講座

新設

初回開催日の
2週間前まで申込可能です。
お申込みはこちらから！

概要

本コースは、事業部門や研究開発部門のマネージャクラスの方を対象としています。

本コースでは、事業部門や研究開発部門のマネージャの方にグローバルな知財動向や企業を取り巻く知財リスクの現状と、これらの対応策について集中的に習得して頂き、技術部門のマネージャの方の知財面のリスクや知財の活用に関するマネジメント力の向上を図ることを目的といたします。

本コースは、最近の動向を踏まえた知財の観点からのマネジメント力の更なるレベルアップを図り、ワンランク上の「事業に貢献する知財活動」を目指すきっかけ作りにもご活用ください。

開催日 (1 日間)		講義科目	講師
11/28(水)	午前	1. グローバルな知財動向	特許庁 大熊 靖夫 氏
	午後	2. QRコード開発における知財活動	(株)デンソーウェーブ 原 昌宏 氏
		3. 研究開発における知財マネジメントの留意点	(株)IHI 芳之内 淳 氏

申込コード: G9M-N1-S

1. グローバルな知財動向

本講義では、講師の幅広い知見に基づき、各国（特に、先進国、ASEAN、BRICS）の知財関連法整備状況、出願権利化状況、活用状況、また技術流出等の知財リスクなどについて、技術部門マネージャとして知っておくべきトピックスを紹介して頂きます。

2. QRコード開発における知財活動

知的財産の活用が事業に大いに貢献し、成功を収めた「QRコードの開発」において、講師自らの知財活動体験を元に、QRコード事業における、特許出願、他社特許対応、オープン・クローズ戦略などについて振り返り、技術部門マネージャとして取るべき対応や心構えについて紹介して頂きます。

3. 研究開発における知財マネジメントの留意点

現在、各企業において、知的財産の権利化や活用、また他者の権利との関係などの観点から、様々なトラブルが生じており、それらの多くは各社共通の問題といえます。ここでは、主に JIPA 会員企業のなかで起こったトラブル事例の紹介及びその背景や再発防止のためのポイントを解説します。